



RISING SUN

～学び続ける職員集団のための授業力向上通信～

創刊号

発行責任者
副校長 下町壽男

「Rising Sun」発刊！

4月の年度初め職員会議で、坂本校長から学校経営方針が話されました。

冒頭、校長は「Rising Plan」という言葉を、計画推進のキャッチフレーズとして掲げられました。「みたけヶ原の黎明に朝日が昇る」風景をイメージしたとのことでした。まさに黎明期にある今の附中が目覚ましく成長し、朝日の如く爽やかに世界を照らしていくのだという強い意志を感じる言葉です。そういうわけで、この通信のタイトルを「Rising Sun」としました。

さて、学校とは、教育成果を求められる経営体ともいえる存在です。そして、学校の教育活動の成果は、もちろん、生徒の能力や、教師個々の力量に依存する部分が大きいです。しかし、個々の力量の集積に頼るだけの教育活動には限界があります。ましてや、カリスマを調達して、その存在に委ねるのは組織の停滞を生むし、また、汎用的な手法や、マニュアルを徹底すれば自動的に教育活動が回るというものでもありません。

そこで、私たち教師に求められるのは、チームとしての意識を持ち、教職員が「学ぶ集団」となること、そしてその姿を、生徒、保護者、地域社会に見せていくことではないかと思えます。

生徒と教師はいわば向上心の同志です。教師は、生徒と一緒に成長しようとする思いを持ち、常に自己啓発し、向上心を持つことが求められます。そして、教師が学び続けることで、組織は持続発展していくと私は考えます。

この通信「Rising Sun」は、教師が「学ぶ集団」となり教育活動に励むためのプラットフォームとして、また、附中の教育を広く発信するコンテンツとして作成していきたいと考えています。

内容は、教育に関する情報、先生方の授業実践の紹介、授業改善のヒントなどを予定しています。先生方からの意見や感想をいただきながら、双方向の形で配信していければと思います。どうぞよろしくをお願いします。

建学の精神を考える

年度初め職員会議で校長が提示した経営計画の一番最初に記されているのが、以下に示す本校の「教育理念」(建学の精神)です。

●独立進取

自主自立の気概を持ち、創造性と進取の気象に富む生徒を育てる。

●研鑽努力

高い志しを抱き、目標の達成に向かって切磋琢磨する生徒を育てる。

●尊師愛弟

豊かな感性と深い知性を持った、心身ともに健康な生徒を育てる。

校長は、この建学の精神は、教師の存在意義(レゾナートル)であり、これを自分の言葉で捉え直していくことが必要だと話されました。

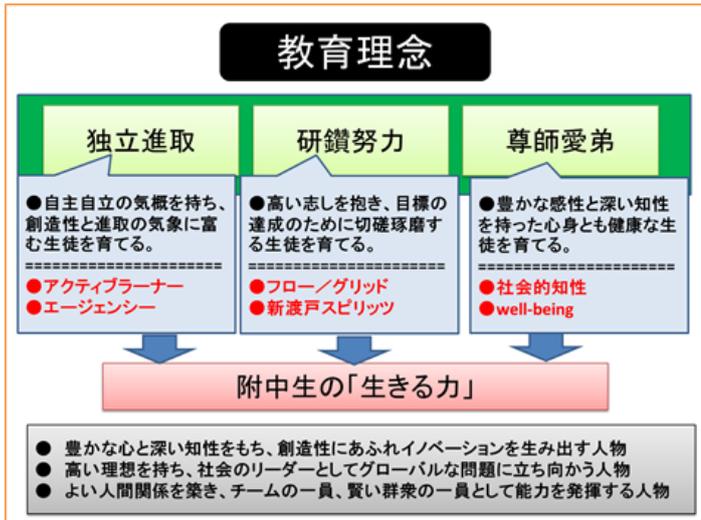
往々にして、私たちは校訓や教育理念について深く考えることなく、何となくやり過ごしてしまっているのではないのでしょうか。「大切なことだけ」と思いながらも、神棚に祭っているだけの状況があるのではないのでしょうか。

私は、教育の目的は「本当に大切なことを、本当に大切なことにする営み」と捉えています。そして、校訓や教育理念の中に、「本当に大切なこと」が何であるか、そのヒントが隠されていると思うのです。

校訓などの建学の精神は、時代を越えて変わらず引き継がれる不易の部分もありますが、時代や社会情勢の変化の中においては、新たに問いを立て、捉え直し、自分たちの言葉で語るという「自分事」にしていくことが必要です。その上で、職員全体で、育てたい生徒像を共有し、それに基づいて、授業改革、組織マネジメントを行っていくことが、持続可能な学校経営につながるのではないかと思います。

そのことを踏まえて、私も自分の言葉で、本校の建学の精神を捉え直してみました。

裏面のようなポンチ絵で示します。



私は、教育理念に掲げられる3つの柱を附中生の「生きる力」と捉えたいと思います。

そして、それぞれの柱に対して、今風のちょっとしたキャッチコピーをつけてみました。以下にそれらについて簡単に説明します。

【独立進取】

●アクティブラーナー

主体的、能動的に学び、知識を生きて働くものにしていく人。変化を受け入れ、常識に縛られず新しい視点を持ち、イノベーションを生み出す人。

●エージェンシー

自らの責任を自覚して、主体的に行動し、変化を実現していく力。最近、OECD で使われた新しい概念。

【研鑽努力】

●フローとグリッド

フローとは、心理学者のチクセントミハイによって提唱された概念で、物事に深くのめり込み「気」が充実している状態のこと。「気」が充実しているとは、体や脳にエネルギーが満ちていて、それにより集中力や高揚感、そして何事にも屈しない強い精神力が生み出される。

グリッドとは、目的を達成するために粘り強く、最後までやり遂げる力のこと。努力、才能に変わる第3の成功因子として心理学者のダックワース氏が近年提唱し話題になっている。

●新渡戸スピリッツ

新渡戸稲造が説く武士道精神。義・勇・仁・礼・誠などの徳目によって、自分を律し、心を鍛え、打算や損得を離れて決断し、行動する精神。「勇猛果敢なフェアプレイ精神」「ノブレスオブリージュ」とも例えられる。

【尊師愛弟】

●社会的知性

傾聴すること、共感し他者を支援すること、人のために心を遣うこと、ホスピタリティマインド。これらはAIが人間に追いつけない知性である。

●well-being

物質的な面だけに価値を求めるのではなく、生活の質を高め、健康でより豊かで幸せな生活を送ること。

皆さんも、本校の教育理念を自分なりに捉え直してみてもいいのではないでしょうか。

Topics

学びの4段階

～人間は学び続ける動物である～

第27代東大総長である佐々木毅先生の学びの4段階について紹介します。これは、2018年2月に、佐々木先生が花巻北高校で講演されたときに話されたことをまとめたものです。

「人間とは何であるか」という問いを立てたとき、その答は様々である。佐々木先生は「人間は学び続ける動物である」と提起する。そして「学び」を、以下の様に「知る」「理解する」「疑う」「超える」という4段階で捉えている。

① 第一段階 (知る)

お手本があり、答があるものを学ぶ。作業、訓練という意味合いが強く、新しいことを見つけ出すよりも、誰かがやってきたことを受け取るという段階に留まる。学校で行われる「勉強」の多くにその形が見られる。

② 第二段階 (理解する)

異なる考え方を受け入れ、「なぜ」を掘り下げ、理由や根拠を問いただしていく中で、自分の意見を持つ。

③ 第三段階 (疑う)

理解したものを更に問い直していくことで知識を強く深いものにする。前にやってきた人の成果を疑い、オリジナリティを打ち出す。

④ 第四段階 (超える)

疑うことを超えて、既存の思考パターンから自由になり、新たな価値を創り、イノベーションを生み出す。

学ぶとは人生をどう生きるかということであり、学び方によって、生き方には雲と泥の違いが生まれる。